東遷基業

第二十

共三十

簡

和書門
類
三三一一六號
一一〇函
四架
三〇冊

内閣文庫
和
三三一一六
類 號
三〇冊
一四八函
一一九架

154
閲

内閣文庫
番號 和 33116
冊數 30(20)
函號 148 109

国立公文書館
National Archives of Japan

別154

国立公文書館
National Archives of Japan

東遷基業卷第二十 目録

同年 是日如水出陣所大友義統等合戦の事

同年 石垣原合戦所大友義統降参の事

同年 安岐国来城攻所海戦乃事

同年 宇土城責所小川合戦の事

同年 宗義秀包帰陳所江上合戦の事

玄圃齋藏

玄圃齋藏

国立公文書館
National Archives of Japan

東遷基業巻第二十　佐久間健撰

黒田如水出陣附大友義統舉兵の事

黒田勘解由入道如水ハ豊前国中津川の城ニ居られしか
城下の町人伊藤屋源左衛門と云者を以て如水か細作ニ度々
云よりて豊後表通日入強ニて四城へ行中伊豆より返信と佯
云七月十七日の事源左衛門宅ニ来合せしる伊豆より返ニ而ありし由後
如水の家来某源左衛門大坂より帰りて要ニ伊藤屋ニ
宅ニ来り要所左衛門毛利五左衛門安人の口上を申ニ石田
治部少輔等と与し大坂へ下り大老奉行と談合して
内府征伐の事ハ三ハ相定を自諸大名の人質を大坂の城中へ入
込ミ伏見の城を攻落スハわかようて二人の内奥方と出
地へ下し気々せ人と密ニ[illegible]

ありし如く兵法をも学ひて在京せしか　行中伊豆守殿へ使者を
託して急き中入道殿行の途中より帰らるへしと云せし
て帰陣せしか　伊豆守ハ道にて帰らるへきハ如何と石田治部
少輔企てしなし　内府を退治せんと為して大事の企の事ありて
暗愚の少輔は何気なく一時の勝負を争ふて蟷螂か車の歟
もうたきはつかん事を争ひて何気なくして　内府は味方せしめ
よ於てく跡を尋ねて中の所へ尾して申させしハ伊豆守を
其色の任に従ひて　内府は味方に先んと云ふて是別ハ帰城
ありしを以て中津川の城内に陣を置きて事なりしか如何にせし
為すへきにて評議あり一同に召集の者を相談して事いつ同心して
要害を守りて行はるへき事為すを行ひて事ハいつ
為れん如何やといはんは如何に勝負て而して不足の事なり

是此度の合戦に　内府は其負けて在城に候ハ未た始末味方とる
以かたく京城に楯籠り候ける処を運に任せられ事を如くさせ候はし
伊豆守は籠城の中に何気なく諫言へ御さし筆印を出し事
肝要也但馬守にも同じく上寿の城主又ハ右衛門の佐同じく後守の城
相模守義秀の後守　手長門守を紀伊国主に召て若も様の歟
あらいにて城へくくに拒き如き法に依て行へきあり領国へ歟
と入しては　内府の此義理ハ何角の事中に候ひつる所領とも
何にさまて中させ候は何気なしに勝負の為事に何にく候
国家へ出陣せしむ此方より数多くの兵を領国にかへて候人々を
し給候へと申候たしして何らのかたを与へ御節の事ハ何日と
様にて沙汰致し候らに来て候ハ一家の如ての者へ御下知を候
と康同よ積宿に沙汰致して御沙汰の人々よ知らせて後日へ御沙汰人の

中ほど二ツ三ツ大きなる穴ありて人そこに落ちて死すること有り
ハ如何ぞ中古今度当家の先祖もしきりに掘ることなりと家人とそうろうもの
しき掘穴あるべきやと掘穴をもうけ渡辺人数の中に忠兵衛
仏ものこれ出来りしかるに極くせ家貧しく人遣かつもの
きき事也元年に費ぶ省き人夫沢と高金をうり武用に使ん
方なれは二ツ三ツ大きなる沢と沢に費といめ手ちく
そうの儀く年ぶ方捌くそ人多く集りて
光信あるべしと云ふ人皆感伏ちくしかりて如ハ奥
方の帰西仰ちくれ候ものに成り甲斐
四家の内歌とかつまりは行くとして初果ハ方を更用と
新安なれい若色刃よりすくうとうくしかるに
りやうにかと一方ものにて出りたるの後人如ハ

と云ふの用定所ものの部屋を利ち中陣へ下りたれハ
如何ぞ掘穴ふく人の事かと尋のたまよ中ち如何に思ふ
ちくう如何の石中ぶ初めて穴の道の遊ぶ
加屋信の四郎ち新屋大郎左衛門
ちくう方信ハ歌ちくしかるに掘穴へ下り
中陣へ方屋ちくしかるに信四の家ち掘穴と如ちの家
掘穴八郎ちくと一緒のようう四宝八郎ちくと出屋ちくれハ
如ちくうは方ちくしかるに傷ちくしかるに
叶ぬ掘穴ちくと初送ちくち信の如屋しかるんしてちくの用宝
信へ一ちくと如信へ送ちくち中ちくうち信四の西
宝ぶ人ちくしちくち中陣川と知ちくしかるに如ハ
未の人中ちくしちくち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義統ハ久しく太閤の怒りに觸れ安藝中納言輝元ニ預られ
嫡子義延ハ　御家断絶なれとも太閤ことの外御憐ありて義
統（ムネ）周防山口ニ蟄居せられしを召出し加藤主計頭ニ預け
馬百疋人數三百餘長柄百本鉄炮三百挺ニ而手勢を揃へ急
き豊後へ下り當所の城を取巻けれハ杵築の城主松井佐渡守
中川修理大夫ハ加勢として豊後へ馳向ふ
如水ハ大坂の陣をとゝのへ出陣せんと思ひけるか豊後の勢と周防の上の関ニ（使イ）船
とゝのへて大友殿ニ大坂より下知ありて出船せしよしを
告来りけれハ速ニ人数を出しけれハ大伴伊予守も相從ひ
從軍ニ義統ニ頼ミ仕へける大ミ(?)大宰とい(?)ふ者（一本ニ葦屋大宰とあり）をハ其中
津の國ニ居住しけるか此度使者として召寄られ其儘大ミ(?)へ
しと申けれとも聞入す中々にて太宰ハ義統ニ付ける者なり
杵築の城ニ徘徊して城の表門玉坂のつゝきよりかゝりて卸
て敵の人數の多きを見て加勢の来るを待けれハ彼の者とも手ニ南の方
如何にも終ニハ高も引とい(?)されけれとも押へしと討け
まは此方ニて大友ハ早く討ちへき覚悟にて皆
く時を移さす人数を分けて敵を取巻き必定とそ見えける
く知る者なれハつゐに大宰ハ人数を出して大宰か人質
甲斐（両敗）此方ハ義統帰りぬへきとて物分り（の）心を安んし
如何にもハ部下によりて物分の道とて案しけるハ味方より
入るものもありけるか義統は心を砕く世を歎き悦ひ
家の再興とは思ひけれハ敵の事も立てゝ其后
あるは服従する事もありて其后義延（義延一作義信）関東ニ而
は日々に其身の為に事を行ひ付けて兵卒ハ非

もれし奉行方ゟ歎しと思ひ候へハ大学ことき若か何かと
歎の可志とかゝる若しくうらん援兵の振舞ハ本よりの附
よりも来りし救援の志ゝ行る英雄と称せらるゝにもその大縁と
はかりくかうら見をせらるゝによりて勤めとおもひてうち追付
て海ハ波の為ハ能のとこし大本の船を浮め彼ありて軍をなし給
あらそ上方よりなつる浪人を相つれへらるゝ文辞えよられ
加勢ハゑへさるかとめ次の本がよくうく見受けまてしと丁寧に
こまんかひとにし合あしらひ又大学をとも会へく来りくをと返答或
いひ出さし書状をなし下りくしく急ぎはゞ口上にて中ゝ合へく逆
つい当分も大学をも引払しく九月あるは戸部中津の浦より
纜（トモヅナ）を解くて急ぎけり こ後は先の者後の兵へ相馬ゆうえし
もうく会津所領ぞ七百余人と本陣て中津の城の前船

としとかし釜田の城を取り兵を大右ゟうちに籠んで攻所と本陣く
この築の城を相山辺を備へすと高橋助七をも本陣とつくらる
五百余人と領内よりあまりくちらせかゝりける此度の制に如斯
中津をと出しなりうく知る東に家札とふて軍勢の行列
まうつくは後とりしゆくのへ相とろかりて毛利をさ衛門一備を黒田
兵庫助高重一備にて栗山四郎右衛門（後号備後）後藤又兵衛（後号隠岐）一備
母里多左衛門升枝半左衛門一備久野次左衛門尉又兵衛あるがし
池田九郎左衛門三田安兵衛一備都合八千余人とちゆ海上より
飯田人御くゝ家三百余人 如水の旗本九百余人惣勢九千四百
余人にもう吹きしし 去程に馬続七太郎殿大学をも九月七日
義則大島に移くぬ渡へ如月の日本ゟ中すあるにみず度此本
五と所領余の候の度の所地気在て佐へ此うち端に残るの

ハ来て暮らし給ふ三百石とらせて又大友法名宗麟の和睦をとり持て

よりりくのぼりて支りけ討死なし其よりりて帰国の

ハ段々ま来まさん為ハ書状をまいらせ候ハ此次に此家

承大半年々之國ニ使者を以て家臣中との

まちし 関原記大全曰一本ニ如水の書状を記しけれ共是を不記 これハ多分記し之をかきても見て略之

使者参りて候 旅扱ひしかし中にも此時義統ハ如水乃

をそ分合行りて其ハ中々以て其の道より中津へ

使者しもく 何のいよいよかと思ひつるやし然るに新ま

御ちせ帰りを延ニて帰国の趣を見るに義統の返書

ととをおく御ちせよりまかりけるに如水の然ニ文言なりし事

中津へ到り一和を取り定め中なりけるか上方の事ハ定まりなし

施れハ是より和平ニもとり多くの中々なりて

来ぬへきよりの帰国へしと有よりり尉之大宮用なしとて九月

九日の夜中津へ帰りけり如水ハ其日中津を出陣せられける

大友宗ニて義統の返書を被聞召る

今は安岐の城に熊谷外記之剃(ソリツケ)と有之ニ付此中ニ寄る時節(?)

拠の後れを不知年の思召筋は如何様ニ被仰候而ハ御出御掛り事被

所所ニ可申候處の御悪心ニ御座候ハ此度は一命一段御思

とも存候又御見舞にも存せ候ニ付來年中ハ尤ニ候と申ス御座候

実延ニ世(?)子出し度候段ハ此度大事ニ思召候ハ[illegible]と

新寛ニ家(?)二三日中豊後へ可参候様子以使者[illegible]を申候

可申其を待候

~~十~~九月十七日

黒田如水花押

大友少将
義統

如水ハ大友義統の返書として三郎ヲ以出陣有て義統ハ敵ニ於
居給ひ急き軍勢を催しとて三日ハ是を
居ける石垣原ニ兼て有十日ハ豊後の高田ニ入られ
ハ如水ハ竹中伊豆守へ使者を以国中のことく
国府ハ味方せしめけるよし高家の者として急き出陣を
催しとて伊豆守ハ大坂よりの書状を見て敵
熊の者ともや来り保長加へて
お馬場さんとも也如水恩賞の事あり敵味方
無きか男なと此方にいたし伊豆守
おこなひ籏を竹中新右衛門後ろ見
三百の威を中白の籏をたて伊豆守先
石垣原へ如水の籏を池永の事なり

此方ハ伊豆守の使者を申含め、如此しやうなれと云ふよし
如水ハ聞て後ハ竹中伊豆守が軍勢を百計り遣して如水
の陣に加はり　一説ニ伊豆守ハ東国へ参候処、竹中家の籏を世に
隠れなかりしかハ、さらの時ハ其の旗を挙て関東方大分の軍勢なり
如水の所へ浮宕せられ
日向の分なり　婦女子共をと
人質に出し　如此の処ニ人数を押よせ、垣見和
泉守か居城富来の城へ上るとて赤根峠より陣をとり取よ入
竹中伊豆守ハ白旗を立　若き者とも
村安鐵砲　大友の家臣松井佐渡守ハ吉田所より出
立花掃部と馳走して義統勢をもつて一揆を催し
其用心をなし　百姓町人とかくいふ事
少き取合て一揆をかり、町を焼立、城下にて
三の軍勢を申付、分国中にて討死の場を合戦を[illegible]

如此母子共ニ日比誠有けるを親しかりけれハ小身なれとも存念
来りし加藤もとへしらく井ニ九歳成ける嫡子村上源次淺倉出仕
由母子とも三年相待候子ニ十八ニ成ける治部之介遠藤ニ子息弥三郎
若者ニよる十八歳より此舞之後ヘ申入仕官をも相望けるか
如此無事を遂けて寄続ニ勢のつよる所ニ未成る所當
あれハまつ此城の囲をとられ人数を押むかへさうしてありけれハ何
ともかく乱とも若いまよりも先利をも手に入涯度とし
当家の姫君と申あけ候ハ我ニ二十ニなるの末の例ニ熊谷郷九郎か注進
若後の城ニ籠りて陣をとりへ一郎ニ此白元利をも継谷の郷中加
出しく追拂新人十余人討取て退く所此其元利ニ藤の森家ニ入るく望姫せしと詞云
るのへ追てとて郷ニ二十四日討死と池田か浅原実家相続しける
城ニ籠りて陣をかまへけるハ城より相見兆ありて味方の陣とも
見へけるニ尤もとも討取れとも、いひけれハ如斯軍中へ下知をまし

一人ともなくて離るゝ所ニハ若花林の小手河ニハ忽陣を下しし
ててかゝらぬ所ハ追て打ける詮義見あひて組ニ出向ふ一人を付
し庭ニ入合戦ニハ陣ニ入て骨を焼せ秘事ニ浅ましく岩尾もしく
中ニ討ニハしとも知ずしつかにて安後の城をとし攻囲ミてしうくる
宮本山里所存ありつと淺倉ニ定まる秘存有ケる花塚利大きく小林ニ至
たまりて存て沼尻城ニて志同くしうる城後ニ花もらくる
小ぶりハ又申しうる物語あらは其本は必ず此表と引拂ひて陣より出
てなかなと遅れるとも、わたくしハ此の山乃陰ニ御動ミて急く敵と
陣中へ退きニ岩田ニ居所〈浅野弾正　弟當〉物語年代山城浅へ仕〈一下京小川源平〉
本多半左衛門以人の小性を海ニ出向ひ吉右をさせてまして下
知せらる所よりつゝく斜ニ花塚小林ニ組して討取ニて手柄
田ニ入て両方の陣ニ至て江見元右衛門構え置をとも加治の

関東衆へさして五千計栗山田所をさしてよせけるを敵と付
留守居しを取置かれは栗山田所を無量天九に北條
利方へ山林を去りて長多村馬場に本如何の本にもとづく波の
山のかりて西風に成けり御免を役け合当の螺吹立て突
まるたしと候とて時は九月十二日手郷より如何一陣
不斗のまへ一向やかてかく栗のごとく熊谷源所助をわたして
甲斐の千人へさる新衆二百餘人城より打出て返し合せ
傳ふにつし人事と計り候ける所をかけ付て一陣にかゝり
よ鉄砲にて打落れ足軽をさし鉄砲を打せけれは味
方とも右ながら走りてく鉄砲追立て如何にも乃
小旗本多か手にて一番に池田をとる無量天九ニ而畑係
手に思田所の衆うけまして一番の先とそ成
かまへく家臣の騎馬敵の大将長熊谷源所をも
備に打て討取りけり城の前に開て小川源之の竹川を經
すゝて追落しと思て手綱を取て懸けて川を渡り後を持て
いんかまへ二十人打取りて川の口に御座にて馬を返し
かへてく敵見て竹所より引退きは敵文書をいはん今
いさ川の敵を追たらとく一陣より下て鑓を振すは東に
出ける者に討死の骨を持て其次第に一日新三郎本多忠二郎本川へ
さ達を見て其後の武士一同に池田へとて東西戸の前へ
陣をとり一番に首を取りて後の敵を一足に
追はして大鉄炮にて討死して陣にて城を取りよせて
御方の軍兵ども文五二十丁追うけて長山田所へ懸て
こたへ候とて東方と百騎に勝軍をととのへて一陣をこし所々へ

取陣するなりけれハ、能塚利右衛門廿五歳、中尾ハ、五門船頭平兵衛等
三之丞其日二番の山根須七郎廿五歳八郎左衛門も栗山将監
太兵衛後陣中村喜兵衛栗山善兵衛津田左兵衛大坂仁右衛門
其日三人の後陣に見衛左衛門の小山善兵衛とも
ら申ける其日三百所ハ敵兵隊長熊谷次郎助が討取より
村上与惣左衛門盛水と鴨居善八が討たる敵の首級中津へ（注）
鴻田口にて首の首当ちる胃首二十八年首二十三つく以十八級へ

一説ニ城兵ら討たる付兵衛善兵衛実が知らんとするを能塚利右衛門制止して此利子おさへて
いて是よりも右用地を守りけれは伏兵起て終に敵を追ひ返す如くに此日の働いときく
てまへ三年武功の人々その前より此者ども申付ける実をもつてなりて敵之数多討
かかりし中興の者と云は一人と終に諸軍其後は続く人あり忽陣も
在所に不審は家の事ハ人々是を思ひ有の者としまへに手年を助けりて
惣之告判（戒）もかく家来ハ石印候皆白此所有兵衛と申多く出之年小林喜兵衛
舟引来ての栗中此志ある者何とも云士た判後の働ても日の深き
武士のうちにわかとも申しく人の歳くし此本多ハ加判の中小姓となりしき
新三郎も小ぐ其年ハ中二十二三かりしと見への先年の居の屋敷も候
数多くは候とも寄日々の一郎まてなり　同家中の経業の者十三年より中の三老中

（上八）こわくと筆こそと深くさくと清水の家士九人の手形盛
其二跡の士にて伏之出ても是りハ跡予の数ニ入りし所に此の者のいえとも
栗山ハ仕込みの様々して城之代を持ちけり之とも保々の時き人数を加りしと定まり
仲さ候後雑兵の覚て角ニ後に一御は此方なの事とし思ひさ向の山のをさ候へ
軍の組かと仍て右の所に書田三右衛門（後号喜田惣兵衛）とも云小野上下の右士世軍の伏勢
る後を取りて後士とも来りし取りて自身にて首の手ハ其伏兵の数おりしく
此跡にハ十分しの中も仰の陣へ門持く所へて荒らしく兵隊多く所の兵共
より一人の小兵衛をはとつて首せ打とも取りて是ハ此所かの以兵ら
の様に兵衆の御方をとまりけき所れた伏兵は中々つくせの兵衛の手よりいは続すり
よし後此所の方にも打つひ其所にも打つとも其中ヘ小林喜兵衛を中ニ揃へは打ても出し
と思ひ家の方へも所へ入りしと家の内二と先を争ひ伏兵の方へ
の士卒に中る所に伏兵かとあし後は所にも出て又後を頼ろて言ひし 未吹荒る所
此乃首ともらて今も中て又後を頼りて来りし後首の御事と申候まて
とにも郎わりの由を御に来りける三の所に人々そうと城外に候
共九兵下続くかく人揃の士ども先生もら後ハ寄にも小林か討手をみても
人々もりて敵兵ともさと笑ひ都多くるる家より一つの御事にし此ものを
陽を没して敵を打てる仍かつ付て敵ニもりけれハ有事もしさ大事とそ此事
共々て出れハ仍出の兵戦と申さは一つ上の挨へもとかく先のつ事をもくて此事近くなる
馬に二ツ書を取りて手来りと仍是に付まうりて是ハ御きにも相ハ公様ある所とる
家に人ハ中と思ひても手柄を以て合れハ三郎申まいと思へまく是にも以て馬より
とりられし敵ニ至忽ニ及山の者に示に又小林平兵衛も御とも次第よりて家中の
来つ陣の人猶ハ行るといいよし思いてもとさて思にいても是山の家も
敵を此下にもかとして思れとしてもかて三さ兵衛に申をする此者にて
侍とも持くと家老々り元無こる中ハニ高目の三う名とり畢て軍勢の...

○排場とあしらひて殊り一陸ふくとして浮を
れ栗山某小命す

[illegible]

瀧求問目

問曰、[illegible]

[illegible]

問家[illegible]味[illegible]

[illegible]

[illegible]

田原にれけるかは不得しく出陣せられけり事なれは武節
の城危なん乃刃剣といふ遠へは思ひもよらず一つも取らし草原
女奴の知将と云ていし九郎城の知恵浅弱虚実衆寡の
ほどを察するに数度掛取とかけ見兄の者を顧みしぬる
一攻にわたく従ひ知らるといふよのつまへの知らるの空法なり
如く海辺の城近にも一揆陣をたてぬし備前の城まで之處
つらつら出陣をえ仰けるかお責せるべく御目なにより知く
尾張まてつらつらわかんとして御無沙汰なくて利とに存られ
事に往とゆくとも何とも察せられ 小侍人にて不知ぬ
能しめしく中にも世院是まりや名
同日関東大名白石田三成御勘当山縣修理亮
出入事此口人の小姓衆と光綱立合しと要山正信

と始まる悉々重々所領利に石小林長石の手勢へ出仕せられ□と
又死たに石田三成も上るべき義田三成と御気れ隔意の旅
にて事流し立合世々年々中小姓の家来衆へ知らず
ぬの候義なく中小姓と云ふ其世十万石取たる
大名の手勢より北条の子々孫々は々くは侍き士の法とちる
その外の孫々もり如水れは中小姓と云ふ孫なる所にて有り
も分の世なり大家ようやう孫々家人とも是非なしと中にて
作り流と参るさ人の中小姓の新参家と記せしめ上
来は石々衆老年の事とせうわりし小姓ら皆同り
名と身分相応也重山は名取の重山小早川る返事にて
るよし小林甚右衛門此方のこしく書義なり此方ふて思し
ハ石の所支例の作法をう書れとても其上の手と存る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

のへ〻競ひ駆け出す井上地形深く之を追駆し
暫く進みて引揚と称へ吉仏統率（丁寧に統率とある所は誤り也）
て敵を引受け西列に立て引揚
合戦と成り又井上陣を地形に
激しき渡り知らへ井上に成り
〻れて来る中に立て井上の方より他の方へ
市左衛門殿に成り
方より寄て来る人数大垣表手に一番に
井村の屋敷に陣取り酒井
佐田の屋敷に陣取り
合戦代はり
士卒を配る

数の陣を敷き敵
より吉仏一番中陣より
井上に成り
吉仏を井上に
れい井上より
字れ渡り
枝と寄れ
買と寄り
妙さ眼と
紙より
接へ寄
別の鉄
より敵二十人
足軽の
井上陣
敵の陣を敷き敵
より吉仏一番中陣より
吉仏を井上に
れい井上より
字れ渡り
枝と寄れ
買と寄り
妙さ眼と
紙より
接へ寄
別の鉄
より敵二十人
足軽の
井上陣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 大坂へ[illegible]

[illegible]

一 行[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

九月十七日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大坂へ中津へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いてるいたし

藩求問目

問曰大政奉還を是迄[illegible]人[illegible]間のとくさと
如何と云[illegible]はの[illegible]輝元[illegible]の[illegible]
[illegible]一味せ[illegible]は[illegible]阜中[illegible]の[illegible]
て[illegible]と同一[illegible]
て国[illegible]の[illegible]
[illegible]
せ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月廿八日ヨリ海津のうしろ[illegible]世話の下命のもとに[illegible]
[illegible]を解放のもとに[illegible]
[illegible]行ひ[illegible]中鉄[illegible]と伝説もあり[illegible]
同日[illegible]中より[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

安政[illegible]海戦の事

[illegible]九月十[illegible]
城（軍艦[illegible]一[illegible]中[illegible]陣[illegible]
[illegible]

城[illegible]二[illegible]
門[illegible]
[illegible]城[illegible]
[illegible]
[illegible]

小山内[illegible]と[illegible]陣とし[illegible]掛橋とかけ大会堂の陰とつくせ
[illegible]羅城門[illegible]拉(ドウ)と[illegible]
[illegible]陣を立[illegible]陣を敵陣と一同に
[illegible]は西陸八九郎の[illegible]
陸地とつくる[illegible]和泉の[illegible]
[illegible]西[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

城とも[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]士[illegible]の[illegible]人[illegible]新[illegible]百[illegible]城[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の船中へ投入れ[illegible]より[illegible]を投入れ[illegible]
石川郡[illegible]より投出し[illegible]
[illegible]二艘の[illegible]船一日より[illegible]焼[illegible]船中の女壹人[illegible]
さけ[illegible]より[illegible]の内家[illegible]
[illegible]船中[illegible]
[illegible]船[illegible]入[illegible]
[illegible]の腰[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神君清正の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今度西の郡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

叡山の衆徒大ぜいかけつけ大ぜい
此列へ下られ行りは此時は
古の城と云て砦を拵へ
長の城代松平伝蔵殿
今度大変長続上方へ届て高山へ沙汰有り
城と云へき所へ行り
加賀まで
長続を
出陣の覚悟あるよし
百人加賀へ
こゝを高き
中しさ
近日
侯の去
侯の
侯の

此脇に
敗りて
清正
海と
山
城
て
て
武道
高
為
の
天下
此
此
此

年人〻清正の為ニ生ル子ニ[illegible]
ら仕[illegible]人〻[illegible]
後世門[illegible]
[illegible]人〻[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八代へ[illegible]仲の[illegible]と[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]八代より[illegible]
[illegible]八代の[illegible]
[illegible]
[illegible]相田[illegible]
[illegible]
[illegible]相田軍[illegible]
[illegible]

相田白[illegible]
[illegible]
相田見[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八代[illegible]
[illegible]
[illegible]小川の一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八代の法皇と云ふ事は
元暦年中に北面の出家
相国法皇の事
歩板をもて
くれなゐの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]大全作法の推量の如く張りと仕[illegible]
[illegible]

宗長秀歌評判記

[illegible]評判記[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天王寺をんとうとゝ[illegible]は和泉ゟ[illegible]行て[illegible]大坂ゟ
藤井寺ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内閣文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan